

鷹丘小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「自分を、友達を、地域を愛する子」をテーマとして、ESDを「地域を愛する子を育てる」と捉え、実践を通して将来にわたって、地域への誇りと愛着を育てていくことを目標とした。
- ・「花いっぱい・本いっぱい・歌いっぱい」を柱に、自然とかかわる活動、知性を重んじる学習、豊かな感性を育てる活動を行った。

・活動の実際

① 自然とかかわる活動（1・2年）

樹木や草花、また生き物を育てること、さらには、朝倉川の観察を通して、自然に親しみ、自分を自然の一部として感じ、生き物への思いやりの心を育てることをねらいとした。

1・2年生では野菜を栽培して食べることにより、収穫の喜びを知るとともに、育てることの大変さを知った。



また、季節の変化を感じられるよう、校内、近くの公園へと秋見つけにでかけた。そこで見つけたどんぐりや落ち葉などと自分で育てたあさがおのつるを使って、リース作りをした。

どのようなリースを作ろうかと楽しみながら考えるとともに、季節を感じるよい経験となった。

秋見つけ



② 知性を重んじる活動（全校児童）

教育活動の中で「物語に接する」「調べる」「感じる」「楽しむ」など、子どもたちが常に書物に触れる機会を意図的に設けた。

また、学級文庫の充実、PTAボランティアによる読み聞かせの計画的な取り入れなど、読書に親しむ環境をつくった。さらには、学習の中に本との関わりの時間を確保し、知的な気づきを促した。



ボランティアによる読み聞かせ

③ 豊かな感性を育てる活動（全校児童）

児童会を中心に行っている「小中合同あいさつ運動」をさらに全校で盛り上げるため、「心をこめて 明るく元気なあいさつを」というスローガンを掲げて実施した。

子どもたちの生活の中で挨拶をより活発にすることで、人とのつながりが意識できるようにし、協調性や地域との連帯感を生み出せるようにした。



小中合同あいさつ運動